

東京五輪に向けての GAP 取得率向上のための提案

日大生産工学部 ○遠藤 真希

日大生産工 五十部 誠一郎

1 まえがき

3年後の東京五輪を前に、日本の野菜などの農作物がGAP（農業生産工程管理）の基準を満たしていないため使用できないというニュースをきっかけとし興味を持ち始めた。現在日本では、GAPの取得率が低く、認知度もあまり高くない。そこで、認知度を高め取得率を向上させる方法を提案する。

2 調査方法

調査方法として、GAPの内容や、取得するための基準、日本の農業法人が実施しているGAPの取り組みなどについてホームページや参考文献を使用し調べた。

3 結果

(1) GAPとは

GAPとは、農業を行う上で食品安全、環境安全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みである。また、これを取り入れることにより農業経営の改善や消費者、実需者の信頼の確保が期待される。

(2) GAPの種類 (図2参照)

- ・各都道府県のGAP
各都道府県がそれぞれ定めているGAP
- ・JAグループのGAP
全国の各JAが定めているGAP
- ・JGAP
(一財)日本GAP協会を運営の主体とし大手小売業などが参加し定められているGAP
- ・GLOBALG. A. P.

欧州の大手企業が主導して策定した取引要件としてのGAP

この中で日本がオリンピックまでに取得しなければならないGAPは「GLOBALG. A. P.」である。

(3) GAPの取得工程

グローバルGAPを取得するためには、認証機関の審査員が生産現場で審査を行う「第三者認証」が必要である。実際の取得にあたっては、すべてを自身で行うことも可能だが、コンサルタントに依頼するケースも多い。

いずれの場合でも、取得はチェックリストの入手が必要となり、そのチェックリストに応じた対策を行ったうえで、自分で内部審査を実施する。その後、認証審査会社による本審査となる。本審査は必ずしも一発で通過する必要はなく、現場にて修正指示が下る。それに対応して、修正申告ができる。

チェックリスト入手から認証取得までの期間は、すべてを自身で行う場合で約2年、コンサルタントに依頼すれば約1年。後者は、各工程がスムーズに進行する。

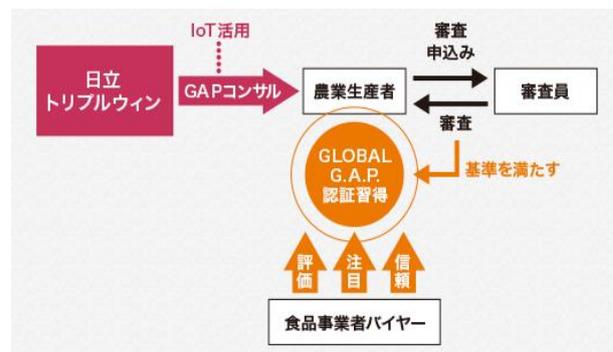


図1 グローバルGAP取得までの流れ(例)

Proposal for Improvement of GAP Acquisition Rate for the Tokyo Olympic

Masaki ENDO and Seiichiro ISOBE

(4) GAP を取得するメリット

グローバル GAP を取得すると、2つのメリットが得られる。販路の拡大と生産性向上である。販路の拡大に関しては、そもそもグローバル GAP 取得は、輸出を目指す際の「資格」の獲得であり、これが無ければ輸出が始まらない、とも言えるほど重要なものである。国際標準の生産工程管理を行う生産者認証取得の過程で生産工程が明確になるため、自ずと生産性が向上する。例えば、適切な肥料、農薬等の散布によるコスト低減と収量の増加が見込める。また、新人用のマニュアルとして活用すれば、技術習得の時間短縮にも繋がるだろう。

この2つのメリットに加えて、「食の安全」「環境保全」「労働の安全」に対する意識の向上や、消費者や取引先からの問い合わせ・苦情に迅速かつ適切に対応できるようになる、消費者との信頼関係が生まれるといった副次的メリットにも期待できる。

(5) 農業法人が実施している取り組み

・岐阜県では、農産物の安全性を示す GAP 認証の普及に向け、県独自の GAP 確認制度を今秋に創設する。農業生産者が県 GAP の認証を取得すると、2020年の東京五輪・パラリンピックの食材として県産農作物を提供することが可能になるだろう。

また、千葉県でも農産物の安全性を高める GAP を推進する動きを見せている(図2参照)。
・福島県独自の認証制度「ふくしま県 GAP (FGAP)」で、福島市で第1回認証委員会を開き、キノコ生産者の野原勇一さん(西会津町)、日光林キノコ園(白河市)の2件を認証された。7月に創設された FGAP の認証は初めてである。

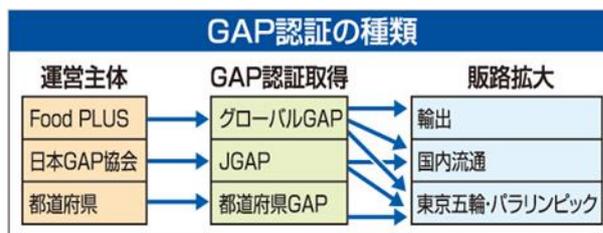


図2 GAPの種類と特徴

4 提案

現在、それぞれの農業生産団体において、農産物によって GAP の取り組みを行っているものと行っていないものがある。今後は、規模が小さくなってもすべての農産物で GAP の取り組みを行いブランド化していくべきであると考え、卒業研究では具体的に研究していく。

「参考文献」

- 1) AGRI JOURNAL (2017. 10. 18)
<https://agrijournal.jp/aj-market/11712/>
- 2) 日立トリプルウィン株式会社
<http://www.hitachi-triplewin.co.jp/service/food-agriculture/> (2017. 10. 18)
- 3) 生産局 農業環境対策課, 農業生産工程管理 (GAP) の普及・拡大に向けて (平成 29 年 1 月)
http://hojin.or.jp/information/GAP%E8%AA%AC%E6%98%8E%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99_HP.pdf (2017. 10. 18)
- 4) 岐阜新聞 (2017. 10. 18)
http://www.gifu-np.co.jp/news/kennai/20170723/201707230925_30112.shtml
- 5) 福島民友 (2017. 10. 18)
<http://www.minyu-net.com/news/news/FM20171018-212869.php>